

令和4年度

第38号

曹洞宗中国管区 教化センターだより

竿頭の先に未来をひらく



表紙写真：浜田市龍雲寺 平和の鐘

発行所 曹洞宗中国管区教化(禅)センター

〒683-0802 鳥取県米子市東福原1-1-22 ウエストビル402号室
TEL:0859-31-5161 FAX:0859-31-5163
HP <http://kyouka-chugoku.com/>

印刷/米子製印
TEL.0859-33-2719

統監就任挨拶

鳥取 泉龍寺住職 三島 道秀



法要、布教、教化活動が思い通りに行えぬ事態となりました。現在も尚教化センターは、試行錯誤をしながら活動をしています。同様に皆様も日々の法務、布教を感染に注意され行っておられると拝察申しあげます。

令和四年四月一日より、鳥取県傳燈寺和田光史老師の後任として不肖ながら統監という重責を拝命致しました。何卒よろしく御願ひ申し上げます。

平成二十八年広島県より鳥取県米子市に移動し七年となります。鳥取県国分寺住職長尾武士老師、前任和田光史老師とセンターの各諸老師により活動されて参りました。令和二年の一月より、新型コロナウイルスの感染が蔓延し同年四月には感染予防の対応が必要となりはじめました。各事業が延期又は中止となり、

宗門では、大本山永平寺福山諦法禪師さまが昨年九月十日に、大本山總持寺江川辰三禪師さまが同月十九日に遷化され、大きな悲しみを感じ寂しいかぎりです。

現在は、大本山永平寺貫首に、南澤道人禪師さまが就任され、大本山總持寺貫首には石附周行禪師さまが就任されました。

両本山に就任された禪師さまのもと、私たちが経験したことのない感染症やそれに伴う人権への配慮、地球温暖化に対しての対応、そして、新たな戦争の勃発に多大の危機感を感し更なる世界平和への思いを強く

伝えなければならないと思っております。さらに、自死、不登校、過疎化、高齢化等による不安感など、多くの心の問題に向かい、布教教化活動、又、その布教教化活動を行う人材の育成に何が出来るのか、どうしていけば良いのかを今より未来に向けて考えてゆかなくてはならないと思います。

朝早くいつもの道を走行中の事です。前方の車がゆっくり停車します。私も停車し左を見ると黄色い帽子の小学生の集団登校でした。対向車線の車も止まり十二、三人の集団が渡りきり、保護者の方が振り向いて深々と頭を下げました。つづいて子どもたちも頭を下げています。その中の一人が手を合わせ合掌の姿で頭をさげていました。

ふと、お世話になったこの近くの三代のご住職の顔が浮かびます。それぞれに厳格で優しい方々でした。

教化の法灯は繋がり、手を合わす小学生の姿となったのかと思ひ、日々の布教教化を考えた次第です。

先般葬儀とは、「目に見えぬ心を形に現す」と、耳にしました。法要、布教、寺院管理の中で見えぬ心をどのように救うか。心に説いてゆくのか。どう寄り添えるのか。皆様と一緒に考えてゆきたいと思ひます。

もとより浅学非才、経験不足の身ではありますが、精一杯精進してまいります。諸老師様には何卒ご指導ご鞭撻をよろしく御願ひ申し上げます。

末筆ながら、皆様のご多幸とご法身堅固を祈念申し上げます。就任のご挨拶とさせていただきます。

統監退任挨拶

鳥取 傳燈寺住職 和田 光史



教化センターが、尾道市より米子市へと移転した平成二十八年四月主監の任を、また令和二年十一月一日より、長尾武士老師の後任として統監の任を拝命し、センター業務に従事してまいりました。

この六年間を振り返るといろいろな情景が思い出されます。センター主催事業である、ラジオ法話『今日のこころ 私のこころ』、教化指導員研修会、布教講習会、禅をきく会等、管区内諸老師のご指導ご支援のもと、充実した内容となり、多くの方々のご縁を結ばせていただきました。

管区内宗務所所長老師、宗務所役職員の諸老師、各御寺院諸老師、皆様のご法愛とご加担に衷心より御礼申し上げます。

平成二十年七月より放送をしておりました、ラジオ法話『今日のこころ 私のこころ』は、昨年度末の第七〇四回放送をもって残念ながら終了となりました。足掛け十四年間、多くの皆様に原稿を執筆していただきましたこと改めて御礼申し上げます。今後は配信法話・テレホン法話として企画を継続させていただきます。引き続き御加担頂きますようお願い申し上げます。

コロナ禍において、私たち一人一人の生活が大きく変わりました。管区内御寺院様におかれましても、三密を避けた法要を余儀なくされたことと思います。センターの各事業も一堂を会しての開催が困難となり、当初は中止を余儀なくされました

が、現在では、オンライン開催または、オンラインと現地参加を併用したハイブリッド方式で開催することが可能になり、多くの方にご参加いただいております。

時代の変化に応じた教化方法を模索し続けることはもちろん重要な課題ですが、対面での教化もより一層必要だと感じております。

実践的な研修が企画されることと存じますので、諸事業にご参加、ご加担頂き、今後も教化センターに対し尚一層のご法助を賜りますようお願い申し上げますとともに、管区内各御寺院様のご隆昌と諸老師のご健勝を祈念し退任の挨拶とさせていただきます。



令和四（二〇二二）年度 布教化に関する告諭

曹洞宗管長 石附周行

今、私たちは多くの困難と不安に直面し、その生き方が問われています。

新型コロナウイルスの世界的な感染拡大により、多くの尊い命が失われ、人びとは深い混乱の中にいます。国際紛争や内戦、貧困・差別・格差・いじめ・命を奪う事件などの社会問題、近年頻発する自然災害・地球環境の変動などは、私たちに生存の危機をもたらしています。

一仏兩祖のみ教えに生きる私たちは、どのような生き方を指せば良いのでしょうか。

お釈迦さまは智慧と慈悲をもって生きることと示されました。智慧とは万物に生かされている生命の真理に気づく力です。慈悲とは限りないいつくしみの心をもって人びとの苦しみを除き安楽に導くことです。この時、私たちはさまざまな立場を認め合いながら、寛容になれるのです。

瑩山禪師は「たとひ難値難遇の事有るも、必ず和合和睦の思を生ずべし」と示され、人びとの悲しみも苦悩も我が事のように受け止め、相和して生きることをお説きです。

本年も四摂法の「同事」を実践の柱として、分かち合い、支え合い、思いを重ね合って、人と人との繋がりを深めてまいりましょう。

道元禪師は「この法は、人人の分上（ぶんじょう）にゆたかにそなわれりといえども、いまだ修せざる

にはあられず」と示され、み教えを、ていねいに日々の生活の中に生かしていくことをお説きです。

仏さまに手を合わせ、坐禅に親しみ、世界中の人びとが誰一人取り残されることなく、安らかに暮らせるよう、祈り、念じ、皆ともに菩薩行を進めてまいりましょう。

令和六年には大本山總持寺開山太祖瑩山紹瑾禪師七〇〇回大遠忌が奉修されます。この遭い難きご法縁を感謝しともどもにご信心をさらに深めていただくことを願ってやみません。

南無釈迦牟尼仏
南無高祖承陽大師道元禪師
南無太祖常済大師瑩山禪師

合掌

令和四年 布教化方針

曹洞宗の布教化は、一仏兩祖のみ教えを実践する中で、信仰の生活から生まれる深い喜びと安らぎを願い、その実現を目指すものです。

本年度の布教化方針は、管長告諭の「世界中の人びとが誰一人取り残されることなく、安らかに暮らせるよう、祈り、念じ、皆ともに菩薩行を進めてまいりましょう」とのお言葉を受け、これまで推進してきた「禅の実践」「一仏兩祖への帰依」「菩薩行の実践」と共に、「菩薩行の実践としてのSDGs（エスディージーズ）への取り組み」を推進することといたします。

宗門においては長い間「人権・平和・環境」のスローガンのもと、さまざまな取り組みがなされてきました。これらは貧困や差別、環境や平和の問題を包括的に理解し、連携して取り組もうとするSDGsと、理念を共有するものです。世界中の人びとのために、次世代の「いのち」のために、身近な生活を振り返り自分

が出来ることを考え、歩みを進めてまいりましょう。

SDGsへの取り組みと同じく、部落差別をはじめとするあらゆる差別の根絶、平和な世界の実現、地球環境の保全、東日本大震災及び原発事故、また多発する災害の被災地支援、自死問題への対応などの取り組みも引き続き進めてまいります。

その基軸となる指針として、以下の項目を定めます。

一、禅の実践をすすめます。

私たちは、寺院の内外を問わず、さまざまな機会において坐禅の実践をすすめます。より多くの方が坐禅に親しめるよう、いす坐禅をはじめ、インターネットを活用した坐禅会や動画の配信等を通して、坐禅の普及につとめます。

不安で落ち着かない社会の中にあっても、身と息と心を調える坐禅を中心とした「禅の生き方の実践」が、智慧と慈悲を育み、確かな人生の基軸となることを人びとに伝えひろめます。

二、一仏兩祖を敬い、おとなえの普及につとめます。

私たちは、日々「南無釈迦牟尼仏」「南無高祖承陽大師道元禪師」「南無太祖常済大師瑩山禪師」とおとなえし、そのみ教えを学び、日々

の行いに生かしていくことの大切さを伝えていきます。

三、「修証義」「四大綱領」に基づく菩薩行の実践をすすめます。

私たちは、本宗の教義である『修証義』『四大綱領』に基づき、布施・愛語・利行・同事の四摂法に代表される菩薩行の実践をすすめます。

世界中の人びとの幸せと安寧を願う行動ですが、自身を菩薩として成長させる大切な修行になること、更には自分自身の深い喜びと安心につながることを伝えていきます。

四、人と人とのつながりを大切にして、全ての人びとが救われる関係づくりを目指します。

私たちは、寺院を場とした教化活動にとどまらず、積極的に地域社会に働きかけることで、人びとの悲しみや苦悩に学び、寄り添い、支え合う関係を築けるようにつとめます。人と人との接触が制限される状況にあっても、手紙や電話、インターネットなどのさまざまな方法を活用して、分断の無い、こころが通う温かな関係を大切にします。

また、仏事が簡略化されがちな世情の中で、改めて、生き死にを超えたつながりの大切さを伝え、出来る限りのご供養が営めるよう力を尽くします。

※ SDGs (Sustainable Development Goals) は「持続可能な開発目標」と訳され、二〇一五年の国連サミットで加盟一九三カ国の全会一致で採択された「貧困や飢餓の解消」「平和社会の実現」などに関連する十七の課題を、統合的、包括的に解決していくこととする国際目標です。

令和3年度 事業報告

月	日	行事	備考
4	13	中国管区運営協議会	米子市 ワシントンホテルプラザ (管区事業)
4	14	前期推進委員会	米子市 ワシントンホテルプラザよりオンライン併用で開催 令和2年度事業報告 令和3年度事業計画(案)他
4	19.20	教化センター前期連絡協議会	宗務庁(オンライン)
5	13	第1回教化資料等企画制作委員会	アークホテル広島駅南よりオンライン併用で開催 ラジオ原稿の点検・校正
5	26	臨時推進委員会	教化センターよりオンライン開催 ラジオ放送終了について
6	2	センター布教師協議会	教化センターよりオンライン開催 布教告諭並びに教化方針伝達他
6	9.10	教化指導員研修会	山口市 湯田温泉 常磐よりオンライン併用で開催 講師◎法相宗 大本山薬師寺 録事 小林澤應老師 『心豊かに生きる～仏道修行の観点から学ぶコロナ時代の生き方～』 ◎山口県宗務所 人権擁護推進主事 石井龍祐老師 『コロナ禍における差別から学ぶ』 ◎曹洞宗総合研究センター 常任研究員 宇野全智老師 『曹洞宗とSDGs～具体的事例を通じて、「正見」と「信仰実践」の視点から考える～』 受講者 現地:11名 オンライン:35名 合計46名
6	19	第1回Let's try ZEN ～坐禅をしてみませんか～	米子市 總泉寺 講師◎兵庫県長楽寺 安達瑞樹老師 『目の前の事を正しく見つめる～コロナ禍において見つめるべきこと～』 参加者19名
7	12.13	管区役員 人権啓発研修会	米子市 ワシントンホテルプラザ ○講義Ⅰ「いのちの選択にどう向き合うかー出生前診断を中心にー」 浄土宗総合研究所 吉田淳雄老師 ○講義Ⅱ「病氣や障がいを持つ方との出会い」 コラボレーションコンサルティング 今川由紀子氏 (管区事業)
8	26	第2回教化資料等企画制作委員会	米子市 国際ファミリープラザよりオンライン併用で開催 ラジオ原稿の点検・校正
8	27	教化活動企画委員会	米子市 国際ファミリープラザよりオンライン併用で開催 布教教化活動について
9	9	教化センター後期連絡協議会	宗務庁(オンライン)
10	14	後期推進委員会	米子市 国際ファミリープラザよりオンライン併催 令和3年度前期事業報告・令和4年度事業計画 他
10	21	禅を聞く会収録	横浜市天徳院 鳥取県日南町文化センターをつないでオンライン収録 語り手:鷲崎香雲師 聞き手:中司弘子師 『感謝して今を生きる』 12/8よりYouTube配信
11	19	婦人会中国管区研修会 (婦人会事業)	岡山県宗務所にて開催 収録し各婦人会にDVD配布 講師◎兵庫県長楽寺 安達瑞樹老師 『心穏やかに過ごすための智慧～コロナ禍で気づきを忘れないために～』 参加者18名
1	20	第3回教化資料等企画制作委員会	教化センターよりオンライン開催 ラジオ原稿の点検・校正
2	21.22	布教講習会・協議会	教化センターよりオンライン開催 講義Ⅰ 研修動画視聴 『布教教化方針を自らの事として～コロナ禍における教化～』 講義Ⅱ 福島県長秀院住職 渡辺祥文老師 『現代社会に布教教化を模索する～ウィズコロナ、アフターコロナの時代と切り結ぶ～』 人権学習光明園家族会長老 難波幸矢氏 『まだ終わっていないハンセン病諸問題』 布教実演3名 参加人数68名
○ラジオ放送 『今日のこころ 私のこころ』			※令和3年度で終了
○認可参禅道場紹介動画制作			※YouTube現在6編公開
○「今日のこころ私のこころ」プレイバック			※YouTube現在15編制作・順次公開中
文化講座			
◎松江市講座(山陰中央新報社文化センター講座)「心安らぐ写経入門」 毎月1回開催			
※10月よりChukaiコムコムスクエア講座開講「やさしい坐禅と写経入門」 毎月1回開催			

令和三年度事業報告

教化主事 中山 尚三

宗務所行持は、一昨年からのコロナウイルス感染症の影響でほとんど開催出来ず、教化、人権、護持会関係の活動は検討を重ね、中止という苦渋の選択となりましたが、梅花関係においては岡山県奉詠大会は中止されたものの、検定会はご要望により、宗務所において感染に細心の注意を払いながら無事開催することが出来ました。

また寺族会は、SDGSについて、宗門の見解をリーフレットで学習し、各教区の寺族会役員の実践を文書にまとめ、自己研鑽用資料として会員に配布しました。

婦人会では、中国管区研修会が十一月十九日に岡山県宗務所にて少人数で行われ、講師に兵庫県長楽寺住職、安達瑞樹老師をお招きして『心穏やかに過ごすための知恵』と題し、落語とギターを取り入れた、常に笑いの絶えないお話をいただきました。「コロナ禍で私達の生活から『しゃべル』『たべル』『トラべル』の三つの大切なベルが奪われた」と今の状況を表し、コロナ禍において噂、差別、絆、家族、命などの問題を、正しく見つめ直し、見つけたものを決して忘れてはいけないとお話があり、抑制された現代でも、日常生活を調える為には坐禅をする事が大切だと説かれました。講演内容はDVD化され、中国管区内婦人会に配布されました。

二年続く中止や縮小の流れにも、やっと光明が差し始めていることを実感しつつ、一息半歩の如く今年度の行持が開催出来る事を念じます。

令和三年度より

教化主事 吉津 賢秀

令和三年度から新型コロナウイルス接種が本格的に始まることから、コロナ感染も鎮静化するものと思われましたが、昨年末より第六波も発生し、さらに拡大することとなり引き続き緊張した生活を余儀なくされています。

この様な状況の中、県内寺院においては法要や檀務の中止や延期さらには縮小等と厳しい声が多く寄せられる様になりました。宗務所としてもこの様なことから、宗務所費への賦課金を免除する軽減措置を行った次第です。行事におきましては、年度前半はコロナワクチン接種の第一、二回目が重なることもあり、梅花奉詠大会、特派巡回、寺族研修会や檀信徒地方研修会は残念ながら中止することと致しました。

後半より檀信徒本山研修を永平寺様において四十数名の参加者を得て実施することができました。永平寺様の感染防止に十分留意された対応の中で輪袈裟授与式、講話そして夜坐、又翌日の供養や朝課等、大人数の読経の荘厳さと迫力に参加者一同感慨もひとしおの様子であります。本山研修となりました。

人権学習会・現職研修会では、従来二日間開催の処、一日とし、リモート参加も可として、講師に正法寺盛田正孝老師を迎えて「現代における若い宗侶の世襲と出家」と題しての講義を拝聴しました。両祖さまのお示しを確認し、各々宗侶として生き様の大きな糧を得ることができたと思えます。

寺族会は全体研修会が中止となったことから教化活動の一環として愛知第一宗務所寺族会発行の冊子「寺族入門・沙羅」を全会員に配布し、研鑽していただくこととしました。

その他事業についてもコロナ禍で各々関係者皆様のご指導ご協力を得て、工夫した活動が出来たことに感謝してまいります。

次年度においてもこの状態は続くと思われませんが、各々宗侶寺族そして檀信徒の皆様方と疎遠とならない様な活動を模索創造したいと考えています。

令和三年度事業について

人権擁護推進主事 石井 龍祐

昨年度に続き令和三年度も新型コロナウイルスの感染拡大により大半の事業が中止または延期となりました。

教化センター及び他宗務所様を参考に、当宗務所におきましても、次年度はインターネットを活用しながらの研修会を計画しているところでございます。

一方、社会情勢についても大きな変化が起きています。ロシアによるウクライナへの軍事侵攻です。時を同じくして北京パラリンピックが開催され、国際パラリンピック委員会パラインズ会長の開会の挨拶が印象的でした。

「今夜は、まず平和のメッセージから始めたい。いえ、始めなければなりません」から始まり、「二十一世紀は対話と外交の時代のはずです。戦争と憎しみの時代ではありません。パラリンピアンたちは知っています。対戦相手は敵である必要がないことを。ともに歩めばさらにより多くのことを達成できることを。世界はともに生きる場であるべきです。分断されてはなりません。」と続き、最後は「ピース（平和を）」という言葉で結ばれました。

人権の尊重がしきりに叫ばれる二十一世紀において、こどもあつさりとして人権が失われてしまうことに、衝撃と強い悲しみを感じずにはいられません。

一刻も早い平和的な解決と亡くなられた方々のご冥福を心よりお祈り申し上げると共に、宗教者として果たすべき役割を自覚しつつ次年度事業に取り組んでまいります。

鳥取県宗務所だより

鳥取県宗務所の各種行事について

教化主事 川崎 康弘

令和三年度の宗務所行事は、前半はコロナ禍の影響で特派布教、本山研修会など主要行事を中止しました。後半は感染状況好転を踏まえ、十月に現職研修会及び寺族研修会をオンライン参加も含むハイブリッド形式で合同開催し、本庁派遣講師の東京からのリモート講話に続き、「対人援助に力を借すには」の演題で傾聴の専門家でもある鳥取大学医学部臨床心理学講座の竹田伸也先生のご講演をお聴きしました。

また、宗務所人権学習会も合わせて実施し、「社会とのつながりづくり」のテーマで米子市の一般社団法人「つながりプロジェクト」理事今川由紀子氏に病気や障がいを持つ方との経験に基づくお話を伺いました。

更に寺族会からの要望もあり、愛知県第一宗務所寺族会発行の小冊子「寺族入門・沙羅」を寺族の皆さんに配布して自己研鑽に励んで頂くことにしました。

十一月の檀信徒地方研修会では、僧侶で看護師でもある立場から、医療現場でスピリチュアル・ケア活動に取り組んでおられる玉置妙憂師をお招きして、「生き方と逝き方を考える」と題し講話をして頂きました。

令和四年度の諸行事は、なるべく例年なみに開催できるよう事前準備した上で、コロナの状況を直前まで見極めるようにしました。実施に当たっても、昨年試行したオンライン方式の活用や複数行事を大規模会場で同時開催するなど、感染防止に配慮して参ります。

また中国管区については、令和三年度は参加人数限定や会食中止等様々な対策を講じながら、中国管区運営協議会および管区役職員人権啓発研修会を実施することが出来ました。

令和四年度行事についても、既にご案内の日程で開催できるよう準備を進めております。

鳥根県第一宗務所だより

令和三年度より

教化主事 末 豊源

コロナも秋には収束するのではと思いき、九月以降の行事を増やしての計画であった。が、コロナ感染症が収まらず令和三年度の宗務所行事は教化、梅花、人権すべて中止にしました。

現職研修会・寺族研修会については、本庁発行のテキスト等を配布して自己研鑽をして頂きました。

鳥根県第一・第二宗務所合同で行われた二月の布教講習会は、担当が第二宗務所であり、コロナ感染者まん延防止中につき、リモートにて参加しました。

令和四年度も昨年同様の行事を予定しています。

本山研修会は、二年前過疎と高齢化で最低人数二十名が集まらない教区があり、宗務所全体で行く事になり、見積を取りました。二泊三日の本山研修会（今回は大本山永平寺）で十万元以上になります。コロナ禍では、大型バスの定員が五十五名ですが、半数の二十五名。何もかも割高です。

その上ウクライナ侵攻でガソリン価格が上がりました。この様な事を鑑み、今年度も本山研修会を中止しました。

リモートも不慣れで、唯々コロナ感染症が終息するのを願うばかりです。



鳥根県第二宗務所だより

宗務所教化活動の概略

教化主事 板倉 省吾

鳥根県第二宗務所では、コロナ禍以降の教化活動を見据えて、カメラやスイッチャー、オーディオミキサーといった機材を購入。四月二十日に開催された「布教委員会」において、機材の利用に関する説明を行いました。今後、管内で行われる各種の行事でこれらの機材を貸し出しします。

七月二日、初の試みとなる「ボランティア活動連絡協議会」を開催。関連団体の代表者にご出席いただき、それぞれで実施しているボランティア活動についての紹介と情報交換を行い、相互の連携を図りました。

特派布教巡回の中止を受けた代替事業として、研修動画「みんなで考える 寺業の承継」を作成し、YouTubeで公開しました。

本庁主催による梅花流特派講習も中止となりましたが、梅花流特派講師の上本英昭師範と大野道源師範を招請して、十月十三日から十九日にかけて、宗務所独自開催による特派講習を実施しました。

十月二十六日、宗務所婦人会「みくも」研修会を開催。元お笑い芸人の介護福祉士・中村学さんに「笑う門にはいい介護」と題して講演をいただきました。

十一月十一日、二年ぶりとなる「梅花流地方奉詠大会」を松江市『鳥根県民会館中ホール』で開催。感染症対策によって午前と午後の入れ替え制とし、コロナ禍前の参加数には及ばないながら、二十六講が登壇され、久しぶりの詠声を響かせました。

十一月二十四日、檀信徒地方研修会「疫病と祈り〜不安と分断の国土を鎮静する〜」を、出雲市『大社文化プレイスうらら館』で開催。東大寺大仏殿と中継を繋いで、疫病の終息を祈願する法要と、奈良国立博物館名誉館員の西山厚氏より「聖武天皇〜大仏への道〜」と題した講演をいただきました。

十一月からはエフエムいずものラジオ番組「うえだちひろのあるがままラジオ」に後援提供。宗務所YouTubeチャンネルでもアーカイブ聴取ができます。

紙上法話

「いつもありがとう」

岡山県 正眼寺住職 土本 公祥



ある時、「お坊さん私の話を聞いて頂けますか？」とお寺に一本の電話がありました。何か相談事でもあるかなと思ってお話を伺うことにしました。

お話の内容は、九十三歳で亡くなったその女性のお母さまの介護に関わるものでした。

遠方に住むお姉さまと最初は二人で母の介護をしていこうと相談されていたようですが、現実には難しく、一人で介護している状態であったそうです。もちろん体調管理にも注意し、食事に関しては栄養のバランスを考えて、好きなものばかりを食べさせてあげることは出来なかったと残念そうに話されました。

やがて認知症が進んでしまい、美味しくもないものばかり食べさせられ困っているなど、あることないことをお姉さまに伝え、お姉さまもそれを信じてしまっているので、お姉さまとの関係も悪くなり、もうどうしていいか分からなくなってしまう、そのような毎日のなかで女性もイライラして夫にあたることも増え、自分が嫌になって、いつそのまま逃げるか死んでしまいたいと思う日々が続いたそうです。

私は、この女性の話をずっと相づちを打ちながら聞いておりますと、少し落ち着かされた様子の女性は、「毎日毎日、高齢の母親の介護、心身共に疲弊、疲労し、感謝の一言でもあれば、少しは救われます。ですが姉までも自分が介護できないことの負い目か、一言のお礼もないです。ただ母だけには、一言でもいい、「いつもありがとうね」と言うてほしかったです」と話されました。

私は、「お母さんは、きっとあなたの献身的な行いをわかっておられたと思います。一番身近なあなたに対しては、もしかしたら気恥ずかしい面があつてお礼が言えなかつ

たのかもしれない。いつも心の中でありがとうとささやかれていたと思いますよ。」このようなことを気休めかもしれないが、お話しさせて頂きました。女性は、「お坊さんからそのように言われると少し心が晴れてきました」と言われ電話を切りました。

電話を切った後、はっと胸にささる思いがして自問しました。人間誰しもがよかれと思ったことが思いがけず反対の方へ行ってしまう。尽くせば尽くすほど当たり前になり感謝されなくなる。私自身、人には感謝しなさい感謝しなさいと言っているわりには、はたしてどれだけ言葉にだしているか。家族に対し素直に「いつもありがとうね」という言葉がでているだろうか？また、回りにいる人達からの優しい言葉に気が付けているだろうか？まったく自信がなくなりました。

道元禅師様は、「愛語よく廻天の力あることを学すべきなり」と示されました。愛語とは、慈愛の心をおこし、いたわりの言葉をかけること。顔をあわせない時にも愛語を聞けば、その言葉が聞く人の肝に銘じられ、魂に染み入る。愛語には、一変させる力があることを学ぶべきであるという御教えです。

この女性のように、一人で悩みを抱え苦しんでおられる方はたくさんいらっしゃると思います。そんな時には誰かに話を聞いてもらい優しい言葉をかけてもらうことで少し心が軽くなるのではないのでしょうか。

振り返ると、私自身これまでたくさんさんの愛語に支えられてきました。頂いてきた愛語の有難さに気づくと同時に、自分も慈しみの心から生まれる言葉を人にかけることを肝に銘じなければいけないと思う出来事でした。

センター布教講習会



島根県 寶隆寺住職

和田 徹生

布教講習会に参加して

今年の布教講習会はオンラインにて開催され、福島県長秀院住職の渡辺祥文老師よりご講義を賜りました。特に「コロナ禍における教化」について、多角的なお話を拝聴することができました。

コロナ禍により、全ての行事が縮小され、減少され、中止されている状態が依然として続く中で、教化の上でも寺院運営の上でも危機的状況にあります。感染拡大防止のための中止や縮小はやむを得ないことですが、しかし、何の工夫も施されずに単なる便乗で中止や縮小の対応をとっている場合もあるとの指摘が講義の中でありました。伝統的に継承されてきた行事は、一度喪失したり簡略化したりしてしまうと、復元や復活は非常に困難です。失ってはならない本質とは何なのか、よくよく考えなければなりません。また、檀

信徒との交流が途絶え、地域社会の無縁化が進んでいる中で、寺院の役員、宗侶の役目は何であろうかと改めて考え直し、模索していかねければならないと感じました。その交流の方法として、ネット環境を充実させ、オンラインでの布教活動を展開していかねばならないということは以前より考えていきましたが、高齢者にとつてはオンラインでの活動に対応すること難しい方も多く、文書による伝道もさらに充実させなければならぬということ、私の頭からすっぽりと抜け落ちていた様な気がします。文書伝道のさらなる強化という提言により、非常に反省させられました。

昨今の世情の中で、ひしひしと「諸行無常」を実感しています。様々な行事がコロナ禍以前にそのまま戻ることにはあり得ないと思えますし、以前のように復活させようとはばかり考えていれば、そのことに執着し、本質を見失いそうになることもあります。コロナによって苦しんだこと、窮屈に感じるこ

とは非常に多くありますが、悲観ばかりでいけないと思えました。むしろ、仏祖方が伝えられてきた法を深く学び、それを私たちがどのように伝えるべきかを考えなければならぬというのは、仏法に生きる者として大きなチャンスであろうと、今回の講義を聴いて改めて感じることができました。

講義の中で、宗侶は昔からアドバイザーであり、サポーターであり、ナビゲーターであり、カウンターであったことを肝に銘じなければならぬというお話がありました。今の私は、経験も学識も浅く、そのような姿には程遠く感じました。コロナ禍の世情をよくよく見ながら、こちら側から積極的





教化指導員研修会



令和三年六月九日・十日
於 山口市・西の雅常磐

山口県 安禪寺住職

村上 邦明

教化指導員研修会に 参加して



▲法相宗大本山薬師寺録事 小林澤應老師

事小林澤應老師による『心豊かに生きる』
〜佛道修行の観点から学ぶコロナ時代の
生き方〜』と題した講義がありました。

小林老師には、色々な言葉を構成して
いる漢字の成りたちを丁寧にご説明いた
だきました。それぞれの言葉の本当の意
味や込められた思いが、とてもわかりや
すく伝わってきました。

特に印象に残っているのは【坐禅】に
ついてです。【坐禅】の【坐】の字を構
成する上の【人】の二文字は「本来の自
己（セルフ）」と「自我なる自己（エゴ）」
という二人の自分を対話させる。これが
自己をみつめることである旨、ご教示い
ただきました。これは混沌としているコ
ロナ禍であるからこそ「自己を見つめる
ことの大切さ」と「今・ここ・自分の存
在の有難さ」を感じるものとなりました。

次に人権学習として、山口県宗務所人
権擁護推進主事石井龍祐老師に『コロナ
禍における差別から学ぶ』と題して講義
をいただきました。皆様の中にも新型コ
ロナウイルス感染症に対する噂話を含め
た様々な話が耳に入ってこられるかと思

います。私自身にも、多くのこうした話
が入ってきます。
石井老師からはコロナ禍における人権
上の様々な事案についてご説明をいた
しました。

石井老師の講義から新型コロナウイルス
スをはじめ様々な事象に対する正しい知
識を身につけ、情報を見極めていくこと
の大切さを痛感しました。そして、私た
ち僧侶は「正見」の実践を通し、人々に
正しい情報を発信していかなければどの
思いを新たにしました。

十日の講義は曹洞宗総合研究センター
の宇野全智老師に『曹洞宗とSDGs』
具体的な事例を通じて、「正見」と「信
仰実践」の視点から考える』と題した
ものでした。

最近頻りに耳にするようになったSD
Gsというワード。このワードには「誰
一人取り残さない」という大切なメッ
セージがあります。私は、「生きとしい
けるも全てが安穩であれ」とのお釈迦様
のお言葉に通じるものがあると感じてい
ます。

宇野老師は「修証義の教えをSDGs
の文脈の中で、檀信徒と共にいただき、
実践していく」ことが大切である旨ご教
示いただきました。

私自身はまずは身近な所（門前）にしつ
かりと思いを致し、菩薩行の実践をして
いきたいと考えています。

二日間に亘る研修会は、コロナ禍の今
自分に何ができるか何をすべきかを考え
る機縁となりました。



昨年六月九日・十日に現地会場は山口
市「西の雅常磐」、オンラインはWeb
会議アプリ「ZOOM」にて教化指導員
研修会が開催されました。

まず、はじめに法相宗大本山薬師寺録



曹洞宗婦人会中国管区研修会



令和三年十一月十九日

於 岡山県宗務所

曹洞宗島根県第二宗務所
十楽寺婦人会

江角 英子

感謝&つながる想い

晩秋のおだやかな日。管区研修会が二年ぶりに岡山県宗務所（高梁市）で少数の参加にして行われ、島根県からは二名参加しました。

岡山県の皆さんは胸に手作りの花ブローチをつけておられ、私達もすぐにいただいた花ブローチをつけると、何だか皆が繋がっているという想いがしてうれしくなりました。



コロナ感染症対策をとられた会場設営。それだけがいつもと違う雰囲気でした。十三時より開催。静まり返った中で始まりました。

研修は、兵庫県長楽寺住職 安達瑞樹様による「心穏やかに過ごすための智慧」コロナ禍での気づきを忘れないために」と題された講演を聞きました。

安達様は、令和元年にHー1グランプリ（法話の大会）でグランプリを受賞。駒澤大学「駒大落語くらぶ」出身。在学中に田辺エージェンシー所属だったとのこと。にこやかな笑顔で私達を包み込んで、テンポよくお話ししてくださいました。コロナ禍において改めて普段の何気ない生活がありがたいということに気づかれると思います。そのためにもどう過ごしていくか。コロナ禍で私達は三つの「べる」（しゃべる・食べる・トラブル）が出来なくなり、ストレスの発散が出来なくなってしまうが、少しの時間でいい

から、ただ静かにすわる・何も考えずに過ごす『坐禅』をしてみたいと話されました。また、日常を調えること。それは、毎日の生活を丁寧に過ごすことであると話され、毎日をあわただしく過ごしていることを反省し、一日のうちにも少しでもゆとりとする時間をつくることに心がけようと思いました。

この後、南こうせつさん作詞作曲の御詠歌「まごころに生きる」をレジュメとされて、命はつながっていく（1番）、分け隔てなく生きるということ（2番）、いろいろの人に支えてもらって生きていくんだということ（3番）を、実例を話しながら丁寧に話してくださいました。毎日を心穏やかに過ごすために、その方法を何か自分でさがしてもらいたいとも話され、「そうだよね。それは自分でみつかるんだよ」と改めて思いました。「そうそう。そうですね。」と。

心穏やかに過ごすために、いろいろな気づきを与えてくださったと思います。最後に、安達様のギター演奏で『まごころに生きる』を皆で歌い、「自分自身の笑顔は、誰かを笑顔にしていると思うと心穏やかに過ごすことになる」という言葉



で終わりとされました。毎日をいつも「笑顔からはじまるを心にもち、にこにこ穏やかに過ごしていよう」と思っています。

あつという間の楽しい充実した時間の研修会でした。この研修会のためにお世話くださいました皆様方に厚くお礼申し上げます。

本当にありがとうございました。「楽しい良い研修会でしたね」と話しながら二人帰途につきました。



コロナ禍で誰もが不安で気持ちが沈みがちな生活を強いられている昨今において、この度の坐禅体験と講演会は参加した誰もがとても有意義なひと時を過ごすことができたと感じました。日々の生活の中変わってくる環境に気持ちが付いていけず、何か落とし物や忘れ物をしているようなざわざわとした不安に支配されている自分に気づき、周りに振り回されずに自らで調べていく方法を教えて頂きました。

初めは坐禅作法が難しいのでは？と不安に思っていた人も、基本的な入堂から教えて頂き安心して始めることができました。

私は数か月前にけがをして、足を組んでの坐禅が困難で椅子での坐禅を体験させていただきました。

初めは椅子での坐禅は物足りないのでは？とか、なんだか愈けているのでは？などとためらいはあったのですが、足を組んでいようが椅子であろうが「調える」という行為に変わりはないのだと教えて頂きました。

身を調え、息を調え、心を調える。意外と椅子で身を調えることは難しいことだと感じました。日常生活での



▲米子市總泉寺坐禅堂

癖がゆがみを生じているのだなと実感しました。息を調えると心が少し穏やかになり安心を得ました。

總泉寺様の坐禅堂は日常とは違った異空間のような穏やかな佇まいで、吸い込まれるよ

うな安心感を覚えました。静寂の中間こえてくる鳥の声、風に吹かれ揺れる木々の音、自分が自然と調和できるのではという感覚を体験しました。

めぐってくる感情にとらわれないようにすることはとても難しいと思いましたが、頭の中に出てきた一滴の雨のしずくから水の動きに意識が向きました。

水が山や川を流れる中に祖父母や親、今までご縁のあった人達の姿がふと浮かんでは過ぎていく不思議な感覚でした。水が海に出ていったときに、自分は沢山の人の環境に守られているのだなと感謝の気持ちがありました。

また、長楽寺の安達瑞樹住職による講演会は、とても楽しくあつという間に時間が経ってしまいま



▲長楽寺住職 安達瑞樹老師

した。大学時代に落語をされていたというご住職、笑いを取り入れながらのお話は皆様を惹きつけ、また資料として歌手の南こうせつさんが作曲されたご詠歌「まごころに生きる」

を用いてのお話の展開が、仏教になじみのなかった人や曹洞宗の教えなど知らなかったという人にも染み入る様に入っていく、誰もが自分の大切な人を心に浮かべながら聞き入っておられるように見受けました。

今、コロナ禍で日々制限をもつての生活の中、正しい思いとは何なのか、正しく見つめることの大切さ、生きていくという大切さをしっかりと抱きしめて、日々を大事に過ごしていこうと実感できたかけがえのない一日となりました。

最後になりましたが、開催にあたり徹底した感染予防対策をとって頂き沢山の安心とお氣遣い頂きました、主催中国管区教化センターの皆様には厚く御礼申し上げます。素晴らしい一日でありがとうございました。

曹洞宗中国管区教化センター主催
令和3年度

禅をきく会

— 感謝して今を生きる —

徹心香雲 師

語り手としてお招きしたのは、かつて「香田晋」の名で演歌歌手として活躍され、現在は出家をし、曹洞宗の僧侶である徹心香雲師。
「感謝して今を生きる」をテーマに、恩師である作曲家・船村徹先生との出会いや香雲師のこれまでの半生、出家にいたるまでの思いをお話いただきました。是非ご覧ください。



語り手 徹心香雲 師 (曹洞宗僧侶・元演歌歌手 香田晋)
聞き手 中司弘子 氏 (フリーアナウンサー)



前編



後編



今日のこころ、私のこころ
Today's heart, my heart

14年間にわたり放送しておりました、「今日のこころ私のこころ」は、令和4年3月末、第704回放送をもって終了となりました。長らくの御愛聴誠にありがとうございました。

今年度より、ネット配信とテレホン法話に移行しております。媒体は変わりますが、番組内容に変更はありません。引き続きナレーションには、フリーアナウンサーの中司弘子さんをお願いしております。ネット配信は下記サービスよりお聞きいただけます。

また、テレホン法話は下記の電話番号にお掛けいただくことで、お聞きいただけます。

「今日のこころ 私のこころ」を檀信徒の皆様にも周知していただき、ご意見・ご感想をお聞かせいただければ幸いです。



Apple



YouTube



Spotify



Google

テレホン
法話

0120-54-0832

(固定電話の方はこちらから)

0859-31-1524

(携帯電話の方はこちらから)

令和4年ラジオ法話「今日のこころ 私のこころ」放送予定日

回数	放送日	県市町名	寺院名	担当者	タイトル	備考
705	4月2日	鳥取県米子市	梅翁寺	倉瀧 英信	元気の出る場所	センター布教師
706	4月9日	岡山県矢掛町	金龍寺	すけがわ 祐川 勝善	水になりなさい	教化指導員
707	4月16日	島根県松江市	吉祥寺	はまぐち 濱口 君枝	いつか行く道	
708	4月23日	広島県世羅町	鳳林寺	はらだ 原田 良浩	合掌の心	
709	4月30日	島根県大田市	慈雲寺	ひきた 引田 佳山	仏さまの心に支えられて	
710	5月7日	山口県防府市	天徳寺	もりえ 森江 裕孝	供養のこころ	
711	5月14日	岡山県真庭市	西福寺	やまだ 山田 良天	遺る人・継ぐ人	
712	5月21日	鳥取県鳥取市	長通寺	いそえ 磯江 紹元	日常の大切さ	
713	5月28日	島根県松江市	正禅寺	よしなが 吉長 裕教	無事に生きる	センター布教師
714	6月4日	広島県広島市	洞門寺	みよし 三好 秀範	違う角度からモノを見る	
715	6月11日	山口県周南市	真福寺	おおの 大野 泰生	ほどけさまのこころ	宗務所布教師
716	6月18日	鳥取県北栄町	知足院	やまさき 山崎 智鑑	思いは形で表現しましょう	
717	6月25日	岡山県津山市	長安寺	くぼ 久保 泰道	冷暖自知	宗務所布教師
718	7月2日	島根県松江市	清見寺	ほりえ 堀江 まゆみ	灯火を伝える	
719	7月9日	広島県庄原市	萬福寺	たかはし 高橋 道英	生命は時間	センター布教師
720	7月16日	鳥取県米子市	梅翁寺	くらたき 倉瀧 英信	ありがたい	センター布教師
721	7月23日	山口県山口市	長徳寺	かわたに 河谷 正也	ご縁を生かす	センター布教師
722	7月30日	鳥取県大山町	龍雲寺	ふじかわ 藤川 善裕	一寸先は光	教化指導員
723	8月6日	岡山県高梁市	安正寺	なかやま 中山 尚山	起床したら、洗面をしましょう	教化主事
724	8月13日	広島県江田島市	寶持寺	やました 山下 崇晴	まずはお茶をどうぞ	宗務所布教師
725	8月20日	島根県出雲市	福知寺	もりやま 森山 清史	捨てること・得ること	
726	8月27日	山口県和木町	安禅寺	むらかみ 村上 邦明	みんなの居場所	教化指導員
727	9月3日	鳥取県境港市	補岩寺	にしお 西尾 修道	昔見た風景	
728	9月10日	岡山県総社市	正眼寺	つちもと 土本 公祥	だめです！いけません	センター布教師

※上記一覧の予定は変更する場合がありますのでご了承ください。

曹洞宗ラジオ放送

「今日のこころ 私のこころ」

ラジオ法話集

2021年度版

《令和3年4月～令和4年3月》 51話収録

今日のこころ、私のこころ

Today's heart, my heart

ラジオ法話集

2022年度



ご希望の方は

曹洞宗中国管区教化センター

までお申し込みください。

お知らせ

教化指導員研修会

- 日 時：令和4年6月14日（火）正午受付
13時開講～15日（水）正午まで
- 会 場：米子市 ワシントンホテルプラザ
- 講 師：曹洞宗総合研究センター常任研究員
関水 博道 老師
- 参加費：14,000円（予定）
- 対 象：教化指導員
- 申込先：教化センター
- お問い合わせ先：教化センター

センター布教協議会・講習会

- 日 時：令和5年2月9日（木）正午受付
13時開講～10日（金）正午まで
- 会 場：米子市 ワシントンホテルプラザ
- 講 師：曹洞宗特派布教師
渡辺 祥文 老師
- 参加費：14,000円（予定）
- 対 象：布教師・宗門僧侶
- 申込先：各宗務所
- お問い合わせ先：教化センター

中国管区センター布教師 並びに 宗務所布教師のご紹介

宗 務 所	役 職	寺院名	氏 名	郵便番号	住 所
岡山県宗務所	センター布教師	正眼寺	土本公祥	710-1203	総社市新本5777
	宗務所布教師	長安寺副	久保泰道	708-0045	津山市西寺町52
広島県宗務所	センター布教師	萬福寺	高橋道英	727-0003	庄原市是松町227
	宗務所布教師	寶持寺	山下崇晴	737-2213	江田島市大柿町大原3413-1
		鳳林寺	原田良浩	729-3307	世羅郡世羅町伊尾597
山口県宗務所	センター布教師	長徳寺	河谷正也	754-1101	山口市秋穂東7052
	宗務所布教師	龍福寺	林達哉	753-0093	山口市大殿大路119
		真福寺副	大野泰生	746-0062	周南市福川中市町6-7
		華厳寺	磯部誠司	746-0012	周南市政所1-16-16
		蓮成寺	土田裕明	742-1504	熊毛郡田布施町川西1140
		周鷹寺	斎藤周三	759-3611	萩市大井3243
		直指院	田村光雄	742-1107	熊毛郡平生町曾根2330
善福寺	清成泰典	751-0833	下関市武久町1-47-14		
鳥取県宗務所	センター布教師	梅翁寺	倉瀧英信	683-0006	米子市車尾5-7-50
	宗務所布教師	天徳寺	宮川敬之	680-0007	鳥取市湯所町1-709
		長寿寺副	古川和彦	683-0337	西伯郡南部町落合518
		同慶寺	大西基道	683-0011	米子市福市1241
鳥根県第一宗務所	センター布教師	訂心寺	木村芳典	697-0063	浜田市長浜町1588
	宗務所布教師	慈雲寺	引田佳山	694-0064	大田市大田町大田口678
		調久寺	樋谷雅豊	695-0023	江津市二宮町神村1725-8
		妙義寺	永見宏樹	698-0017	益田市七尾町1-40
		西光寺副	萩野慈隆	699-5616	鹿足郡津和野町部栄411
鳥根県第二宗務所	センター布教師	正禅寺	吉長裕教	690-2105	松江市八雲町平原742-1
	宗務所布教師	松源寺	佐瀬宏洋	692-0011	安来市安来町1446
		永昌寺	門脇直哉	692-0212	安来市伯太町母里78
		長見寺	藤島義信	692-0206	安来市伯太町安田960
		總光寺	千葉哲之	699-1701	仁多郡奥出雲町亀嵩2236

恒規法要等の法話のご依頼などございましたら各県宗務所もしくは教化センターまでお問い合わせください。

令和4年度事業計画





(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

月	日	行事	備考
4	5(火)～6(水)	教化センター連絡協議会(宗務庁)	オンライン開催
	12(火)	中国管区運営協議会(管区事業)	米子市 ワシントンホテルプラザ
	13(水)	前期教化活動推進委員会	米子市 ワシントンホテルプラザ
5	16(月)	センター布教師協議会	オンライン開催
	19(木)	第1回教化資料等企画制作委員会	オンライン開催
	下旬	中国管区教化センター報第38号発刊	
6		婦人会中国管区役員会(婦人会)	
	13(月)～14(火)	管区役職員人権啓発研修会 人権啓発に関する協議会(管区事業)	米子市 ワシントンホテルプラザ
	14(火)～15(水)	教化指導員研修会	米子市 ワシントンホテルプラザ
7			
8		第2回教化資料等企画制作委員会	
	26(金)	布教師養成基礎講座(第1回目)	松江市 島根県第二宗務所
9			
10	11(火)	婦人会中国管区研修会(婦人会)	山口県宗務所
	22(土)	第2回 Let's try ZEN ～坐禅をしてみませんか!～ 後期教化活動推進委員会	浜田市 龍雲寺
		教化センター後期連絡協議会	
11	10(木)	禅をさく会	府中市 府中市文化センター
	21(月)～22(火)	布教師養成基礎講座(第2回目)	松江市 島根県第二宗務所
12			
1		教化センター報第39号編集会議	教化センター
2	9(木)～10(金)	センター布教協議会・講習会 布教師検定会(開催希望申請中)	米子市 ワシントンホテルプラザ
	20(月)	布教師養成基礎講座(第3回目)	松江市 島根県第二宗務所
		第3回教化資料等企画制作委員会	
3		第3回 Let's try ZEN ～坐禅をしてみませんか!～	広島県宗務所管内

教化事業予定

4月～翌年3月(毎週土配信)	ネット放送「今日のこころ 私のこころ」	You tube・Podcast・テレホン法話他
毎月1回	Chukai コムコムスクエア文化講座 「やさしい坐禅と写経入門」	鳥取県米子市
毎月1回	山陰中央新報文化講座 「心安らく写経・写仏入門」	島根県松江市
随時	SNS・ホームページ更新・動画作成及び配信	

センター役員

	統監	三島 道秀	泉龍寺	〒689-5131 鳥取県日野郡日野町黒坂 421	0859-74-0140
	主監	瀬田 啓道	雲光寺	〒683-0225 鳥取県西伯郡南部町御内谷 1205	0859-64-3023
	賛事	井上 紀生	常福寺	〒689-5224 鳥取県日野郡日南町多里 471-1	0859-84-0310
	賛事	曾根 慎吾	玉雲寺副	〒699-1434 島根県仁多郡奥出雲町佐白 404	0854-54-1536

編集後記

管区内ご寺院様には平素より格別なるご高配を賜り誠にありがとうございます。

新型コロナウイルスの世界的な感染拡大により社会情勢が大きく変化する中、世界平和を揺るがす事案が発生しました。これまでの惨禍により、尊い「いのち」を失われたすべての方々へ深く哀悼の意を表します。また平穏な日常を奪われた方々、大切なご家族、ご友人を負傷された方々に衷心よりお見舞い申し上げます。

混迷深まる世の中であるからこそ、私たちはお互いの尊い「いのち」に寄り添い支え合う事がお釈迦さまの示された菩薩行の実践に繋がると真摯に受け止め、誰一人取り残さない社会の実現に向けて取り組んでいかなければならないと感じております。

これまでの感染対策を講じた研修会やインターネットを活用した情報発信、動画配信を踏襲しつつ、今年度の新たな事業として「布教師養成基礎講座」を企画し、菩薩行の実践、布教化の在り方を一人ひとりが見つけ、研鑽を積む機会となるよう進めてまいります。

管区内ご寺院様には引き続きご教導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

結びにコロナ禍の収束と世界平和を切に願います。

主監 瀬田啓道 拜